

街道を歩く

東海道駿河以東：18子安町—鶴見—川崎宮本町—東六郷



佐藤本陣の跡

佐藤本陣

詩人、作詞家佐藤惣之助の生家
赤木の子守唄、湖畔お宿、人生劇場
青い背広で……など作詞。



本陣跡標識

総持寺 曹洞宗大本山

行基の建てた諸嶽寺を、元享元年(1321)瑩山紹瑾
が能登に創建。越前永平寺と並ぶ禅門の大道場となる。
明治31年4月大火に遭い明治44年この地に移築される。
境内は大仏殿、大庫、紫雲台…など多くの堂宇が並ぶ。
川上音二郎・貞奴、芦田均、石原裕次郎等の墓があるという。



大祖堂



生麦事件の碑

生麦事件参考館

生麦事件の碑

キリンビール工場

道念稲荷神社

首都高速横羽線

川崎宿 神奈川宿から2里半名物 奈良茶飯、米まんじゅう。
本陣2、脇本陣0、問屋1、旅籠72。町並み南北13町52間
宿駅制度の出来た慶長6年(1601)の頃は宿でなかった。慶長19年
(1614)大阪冬の陣、翌年の夏の陣で、また元和3年(1617)朝鮮通信
使節来日の時に臨時に伝馬役を命じられた。元和9年(1623)家光が
上洛の時に宿駅に追加された。泊り客は少なく(江戸行きのみ)経営
が苦しい小寒村であったので人馬の調達に苦しみ宿駅免除願いを2回
(寛永5,9年)出ている。
江戸後期となると川崎大姉の信仰盛んとなり賑わう。

田中本陣

参勤交代で往来が激しくなり寛永12年(1635)に田中本陣
ができる。名主、問屋も兼ねる。宝永年間(1704-11)の
主人 田中兵庫こと兵隅(キョウ)は江戸側で行っていた
六郷川の渡船事業を川崎宿の永代請負するなど疲弊した
宿復興に活躍する。
荻生徂徠に学び享保5年から「民間省要」をまとめる。
将軍吉宗の目にとまり、幕府に登用され酒匂川、六郷川の
灌漑・治水工事に功績を残した 経済学者・土木家であった。
田中兵庫は八王子、平沢村の絹商人の子で養子。



本陣跡標識



市場の一里塚跡



六郷渡し跡

止天神

新六郷橋

万年屋

川崎大師灯籠

明治天皇渡御碑

港町

川崎大師



六郷橋

東海道で架橋が許されたのは、瀬田、矢作、
吉田とここ六郷であった。
慶長5年(1600)家康は大軍を通すために架橋
するが元禄元年(1688)夏の大洪水で流された
以後、船渡しとなる。明治6年架橋。
現在の橋は大正14年架橋、長さ446m、幅16m。



六郷神社

天喜5年(1051)源頼義、義家父子が奥州征討
の時、この地の巨木に源氏の白旗を掲げはる
かに岩清水八幡宮に戦勝を祈願。戦勝した
父子は帰途、神社を創建し報恩する。
境内に白旗を掲げた杉の残幹が残る。

芭蕉句碑

”麦の穂をたよりにつかむわかれかな”
元禄7年(1694)江戸深川から伊賀に向
かう時川崎でのわかれで詠む。
この年の10月大阪で亡くなる。

鶴見橋関門旧跡

安政6年(1859)横浜港開港当時、攘夷を唱える
志士の中に不穏な動きをするものがいたので
侵入を恐れて神奈川奉行が関所を設けた。この
辺りから保土ヶ谷にかけて16ヶ所あったという。

生麦事件の碑

文久2年(1862)8月21日島津久光の行列のの前を
横切った英国人リチャードソン他3名を薩摩藩士が
殺傷した事件。これが元で薩英戦争起きるが
和解。



川崎大師

金剛山金乗院平間寺。
大治3年(1128)、漁夫の平間兼乗が夢のお告げ
で海中から弘法大師像を拾い上げお堂を建て
安置したのがはじまりとの伝え。